

文教大学情報学部 社会調査ゼミナール研究報告

大学生の環境意識

2007年1月

情報学部 広報学科 3年

吉田綾

大学生の環境意識
吉田 綾

目次

第1章 研究の概要	・・・1
1.1 研究の背景と目的	・・・1
1.2 研究の方法	・・・1
(1) 進捗経緯	・・・1
(2) 研究の概要	・・・2
1.3 成果の概要	・・・3
第2章 研究の成果	・・・4
2.1 回答者の概要	
2.2 居住地と環境意識	・・・5
(1) 文教大生の環境意識	・・・5
(2) 居住地と環境意識	・・・5
(3) 居住地と徒歩15分想定	・・・6
2.3 ゴミ分別規制の印象	・・・7
(1) ゴミ分別規制と居住地	・・・7
(2) ゴミ分別規制の印象への影響要因	・・・7
2.4 ゴミ削減方法	・・・8
2.5 メディア別環境問題接触度	・・・9
2.6 環境保全運動活動	・・・10
(1) 環境保全活動とゴミ分別頻度	・・・10
2.7 周囲の人々の影響	・・・10
2.8 レジ袋対応	・・・10
(1) 文教大生のレジ袋対応	・・・10
(2) 1人暮らしとレジ袋対応	・・・11
第3章 まとめと今後の課題	・・・13
参考文献	・・・13
単純集計結果	

第1章 研究の概要

1.1 研究の背景と目的

数年前に環境問題がメディアで頻繁に取り上げられていた時期があった。そのためダイオキシンや土壌汚染、水質汚染、空気汚染、オゾン層破壊などの環境問題は多くの人に知られている。最近ではハイブリッドカーといった燃費に優れ排気ガスが少ない環境にやさしい車の購入や家の屋根にソーラーパネルをつけて自家発電をする家が増えてきている。今はコストがかかるためある程度の所得がある人でないと難しいが、将来的にどの家庭にも普及するだろう。その将来的に普及するころに働き盛りであろう大学生の環境意識はかなり重要である。大学生の普段の生活の中でどのような環境行動をして、どのような環境意識を持っているのか。そして、環境意識を育てるもの要因や関連するものはどのようなものなのか調査していく。

環境意識を問う設問では全国環境事情・平成12年度環境調査データをもとに設定した。環境問題に対する意識は全国的に高いが、環境保全活動に参加するかどうかとなると躊躇する傾向があるようだ。ゴミ袋の有料化やゴミの分別の細分化など市区町村の環境問題対策に反対する人は少ない。むしろ積極的に受け入れている。このことから、何をやればいいのかを明瞭にすれば環境問題に取り組みやすいということが分かる。ドイツでは資源のリサイクルを国全体で徹底して行っている。将来的に日本もそうなるだろう。そして、その時に大切なのは、これから社会に出ようとしている私たち学生の環境意識なのだ。

1.2 研究の方法

(1) 進捗経緯

- ・ 4～6月：テーマ企画
- ・ 7月：テーマ討論会
- ・ 9月：設問設定
- ・ 10月：設問完成
- ・ 11月：調査票の配布・集計、単純集計を行った。
- ・ 12月：研究結果提出

(2) 研究の概要

< 調査の意図 >

居住地によってゴミの分別の種類は異なる。分別数が多い地域に住んでいる人は、細かい分別をしているうちに環境意識が育つのではないかと考える。そして、ゴミの分別回収の中でどの種類がゴミの分別が厳しいと感じるか、ゴミの減量の方法など環境意識に深く関係しているものを調査していくことを主な目的とする。

< 調査対象 >

文教大学の学生

- ・ ホテル事業論 (国際学部) (5 1 名)
- ・ WEBデザイン (情報学部) (3 8 名)
- ・ DTP製作 (情報学部) (1 3 名)
- ・ ゼミナール3年生・4年生 (情報学部) (1 6 名)

< 調査方法 >

授業中に先生方に協力していただき配布・回収した。

< 主な調査項目 >

- ・ メディア別環境問題接触頻度
- ・ ゴミ分別の実施頻度
- ・ ゴミ分別規制の実感 (厳しい 緩い)
- ・ 環境問題についての考え方
- ・ 今までの環境学習体験の有無
- ・ 親からのゴミ分別指導の有無
- ・ 今と昔のゴミ分別の種類
- ・ レジ袋を断るかどうか
- ・ 居住地 (ゴミ分別の種類の数)

< 依頼数 >

1 1 9 枚

< 回答数 >

1 1 8 枚

1.3 成果の概要

文教大生の半数以上が「自分の生活様式を変えても良い」と思う程度の環境意識があることが分かった。環境意識の高い人はゴミの分別の種類が多いところにすんでいる傾向があることが分かり、これは多分別地域（ゴミ分別の種類が多い地域）に住んでいると環境意識も高まる可能性があることがうかがえる。

歩いて15分で行くことのできる場所への移動手段に、多分別地域の人は徒歩、少分別地域（ゴミ分別の少ない地域）の人はバイク・原付を選ぶ人が多かった。ここでも、多分別地域の人ほど環境にやさしく、少分別地域の人ほど環境に悪い移動手段を使う傾向があることが分かった。

ゴミ分別規制の厳しさに対する印象は、プラスチック包装容器回収の有無が「トレー」、「ビンの色分け」、「プラスチック包装容器」の中で1番影響していた。プラスチック包装容器の回収があるとゴミの分別の規制が厳しいと感じることが分かった。

環境意識は周囲の人々の影響を受けるかどうかについて集計した結果、影響を与えている可能性がある人物の上位は1.兄弟、2.恋人、3.親友であった。今の環境意識には、今の生活で身近にいる人物が影響を与えているということが分かった。

[謝辞]

本研究においては、調査の実施に際して多くの学生諸氏から回答を頂いた。この調査協力に対しては心から御礼を申し上げる次第である。調査票を作成するまでの過程では、ゼミのメンバーをはじめとして、多くの方から示唆を頂いた。また研究の実施全般にたいしては、指導教授の八ツ橋先生から様々な示唆を頂いた。これらの皆さんに対して、改めて謝意を表します。

第2章 研究の成果

2.1 回答者の概要

回答表は3つの授業中に回収した。なお回答標本は無作為抽出で作成してはいないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで回答者の分布を表2-1-1と表2-1-2で確認しておく。

表2-1-1の学年別の分布では2年が50.8%と半数をしめ、次に3年28.8%、1年12.7%、4年7.6%となっている。母集団と比較すると2年と3年は多く、1年と4年は少ない。また表2-1-2の性別の分布では、女子55.9%、男子44.1%と母集団と比較すると男子は少なく、女子は多い。これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかしクロス集計やグループ平均などの層化を行った集計では、影響を限定されると考えられる。

表2-1-1 回答者と母集団の比較：学年別分布

	1年	2年	3年	4年	計
回答者	12.7 (16)	50.8 (61)	28.8 (33)	7.6 (8)	100.0 (118)
湘南キャンパス学生	27.7 (942)	26.4 (899)	23.0 (784)	22.9 (780)	100.0 (3405)

(注) 母集団は湘南キャンパス 2006.10 末時点である

表2-1-2 回答者と母集団の比較：性別分布

	男子	女子	計
回答者	44.1 (52)	55.9 (66)	100.0 (118)
湘南キャンパス学生	52.0 (1770)	48.0 (1635)	100.0 (3405)

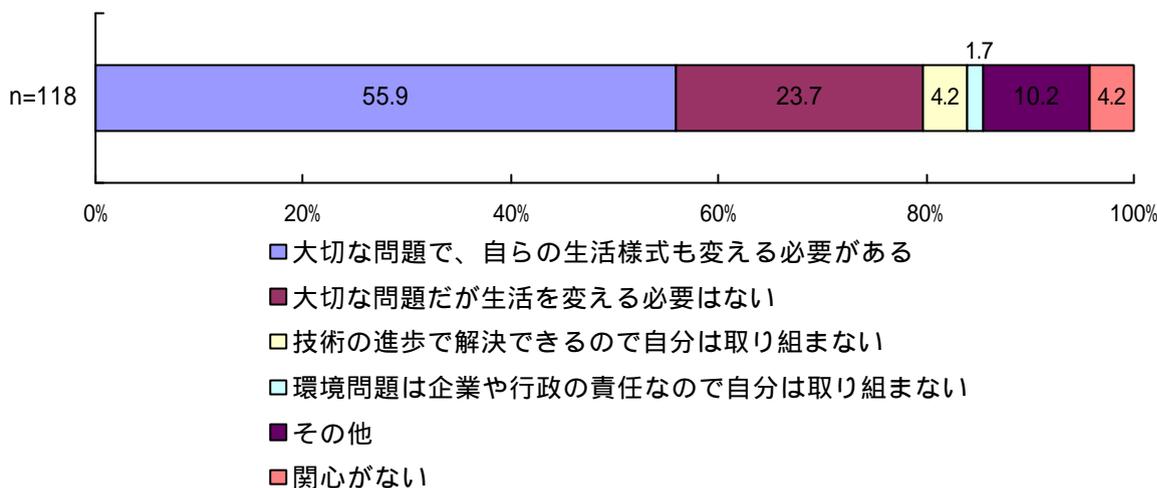
(注) 母集団は湘南キャンパス 2006.10 末時点である

2.2 居住地と環境意識

(1) 文教大生の環境意識

まず、文教大生の環境意識について図2-2-1に示す。

図 2-2-1 環境問題について



環境問題について「自らの生活様式も変える必要がある」という程度考えている人は約56%であった。若者は環境問題についてあまり興味がないと耳にするがそうでもないことが分かる。

(2) 居住地と環境意識

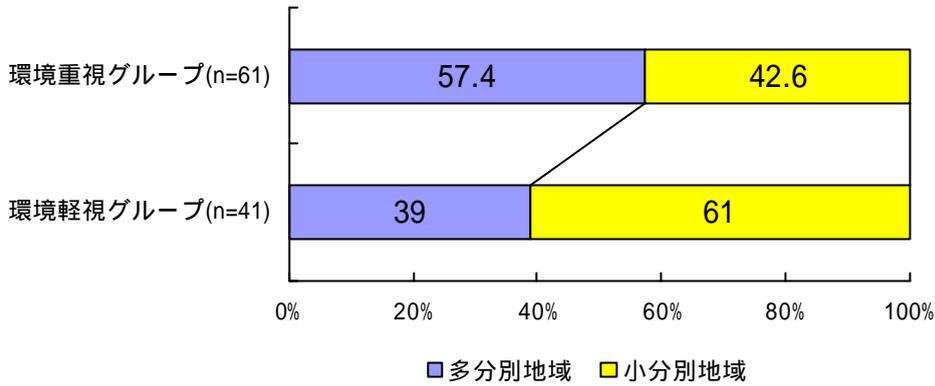
まず、回答者の居住地をゴミ回収の分別種類数別のグループにわけた。茅ヶ崎のゴミの分別は、燃やせるゴミ、燃やせないゴミ、びん・かん、ペットボトル、古紙、ダンボール、紙パック、古布類の8種類である。全体の平均が11.41種類であった。そのため、この種類が11.41より下を少分別地域（川崎市・厚木市・茅ヶ崎市・湯河原市）それ以上を多分別地域（横浜市・大和市・海老名市・平塚市・藤沢市・寒川町・相模原市）とグループ分けした。

そして、「大切な問題で、自らの生活様式も変える必要がある」を環境重視グループとし、それ以外を環境軽視グループとした。

環境問題についてどの程度考えているかという設問を使い、ゴミの分別数によって環境意識に差が出るのかを調べた。その結果を図2-2-1に示す。

図 2 - 2 - 2

分別多少地域と環境意識 (2乗:P=0.069)



環境重視グループでは多分別地域の人が約 57%、少分別地域の人が約 43%である。環境軽視グループには多分別地域が 39%、少分別地域が 61%である。環境意識が高い人たちの方がゴミの分別の種類が多い地域に住んでいることが分かる。

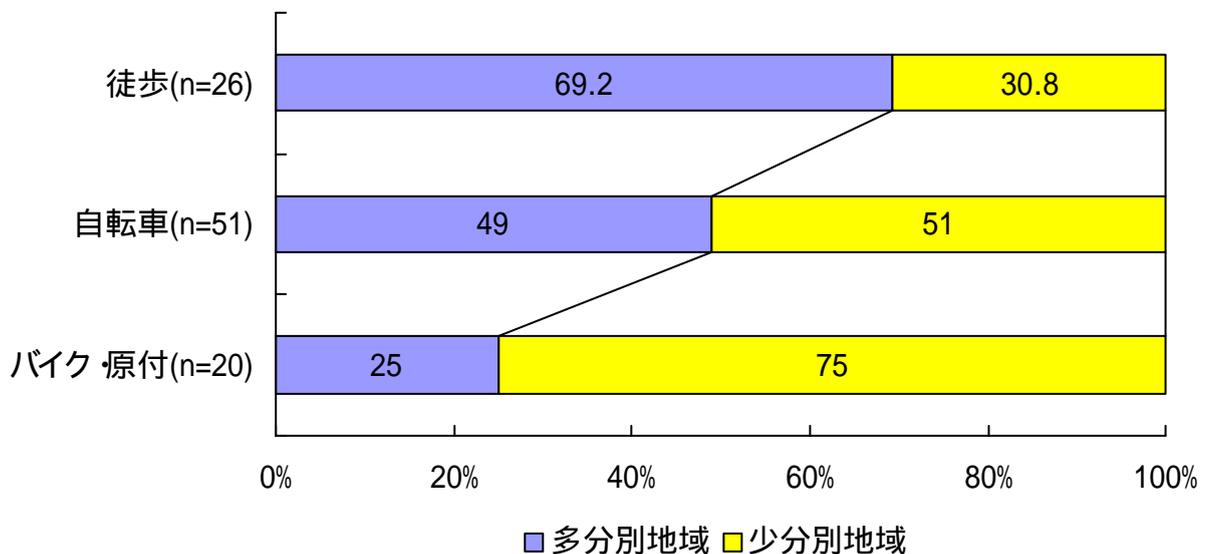
このことから、分別の種類が多い地域に住んでいる人は、ゴミを分別する手間が習慣化されて必要と思われることならちょっとした手間も面倒だと思えることが少なくなるのではないかと考える。このことが、環境問題に対して「大切な問題であり、自らの生活様式も変える必要がある」を多く支持する結果になっていると考える。

(3) 居住地と徒歩 15 分想定

次に徒歩 15 分でいける近場に行き物に行くときどんな手段を使っていくのかと居住地に関係性があるのかを図 2 - 3 - 3 に示す。「自動車」はサンプル数が 5 人と他の項目に比べて極端に少ないため除外した。

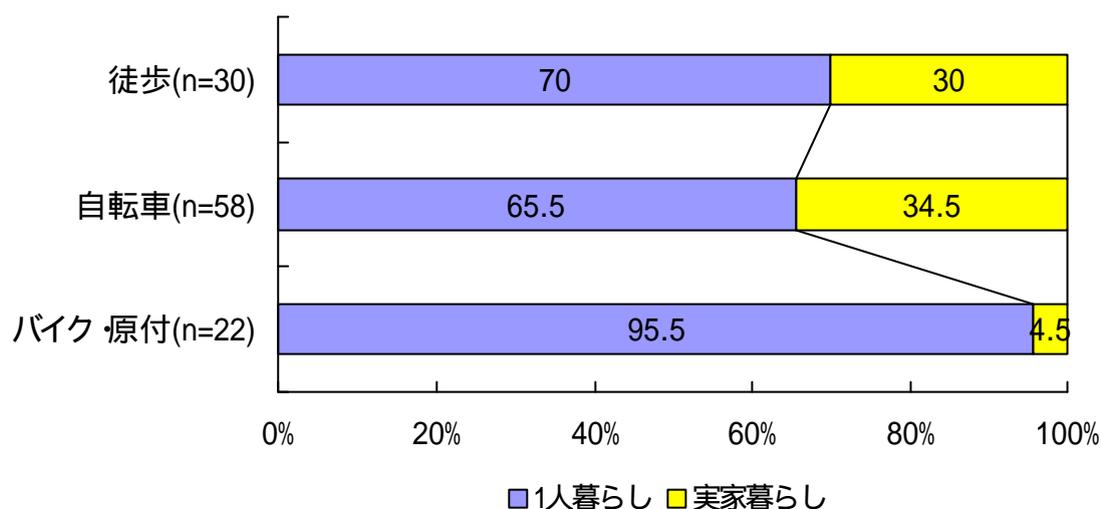
図 2 - 2 - 3

分別多少地域と15分想定(2乗 P=0.012)



多分別地域に住んでいる人は徒歩約 69%、自動車では 60%、自転車では 49%、バイク・原付は 25%を徒歩 15 分の道のりの移動手段として選んだ。徒歩約 69%とバイク・原付の 25%を比べるとかなり差がある。このことから、多分別地域は環境に優しい移動手段を取る傾向があることが分かる。図 2 - 2 - 4 では、15 分の道のりの移動手段と 1 人暮らしかどうかといったクロス集計を行った。

図 2 - 2 - 4 15分想定と1人暮らし(2乗 P=0.025)



文教大生は 1 人暮らしの人が全体の約 70%いるため、それが影響して全ての項目において 1 人暮らしの方が多くなっている。しかし、バイク・原付では、1 人暮らしと実家暮らしでは 91%と大きな差がある。このことから、バイク・原付で移動するのはほとんどが 1 人暮らしであるということが分かる。

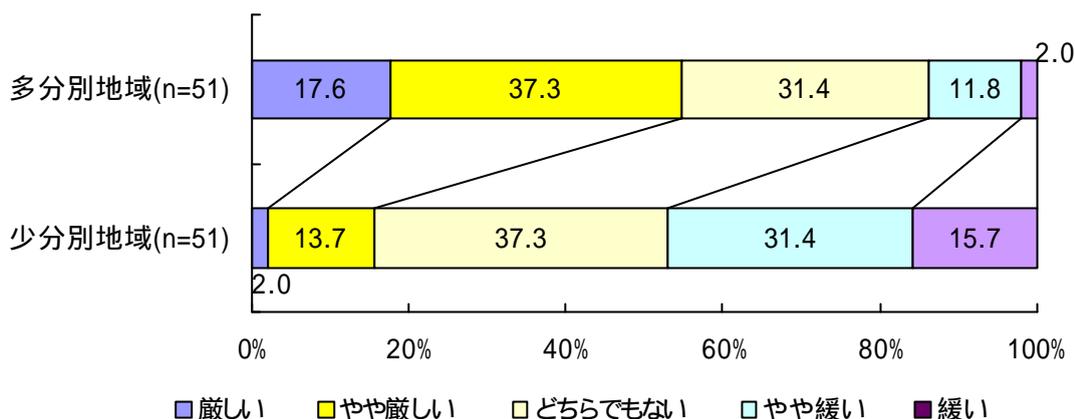
1 人暮らしをすることによって自立心が芽生え、環境についても考えるようになるのではという予想をしていたが、実際には親元を離れている人の方が環境ではなく、便利さを優先した移動手段を取ることが分かった。

2.3 ゴミ分別規制への印象

(1) ゴミ分別規制の印象と居住地

ゴミを分別する種類の数によって、規制の厳しさの印象が変わるのかを集計したものを図 2 - 3 - 1 に示す。

図 2 - 3 - 1 ゴミ分別規制の印象と居住地
(2乗:P = 0.000)

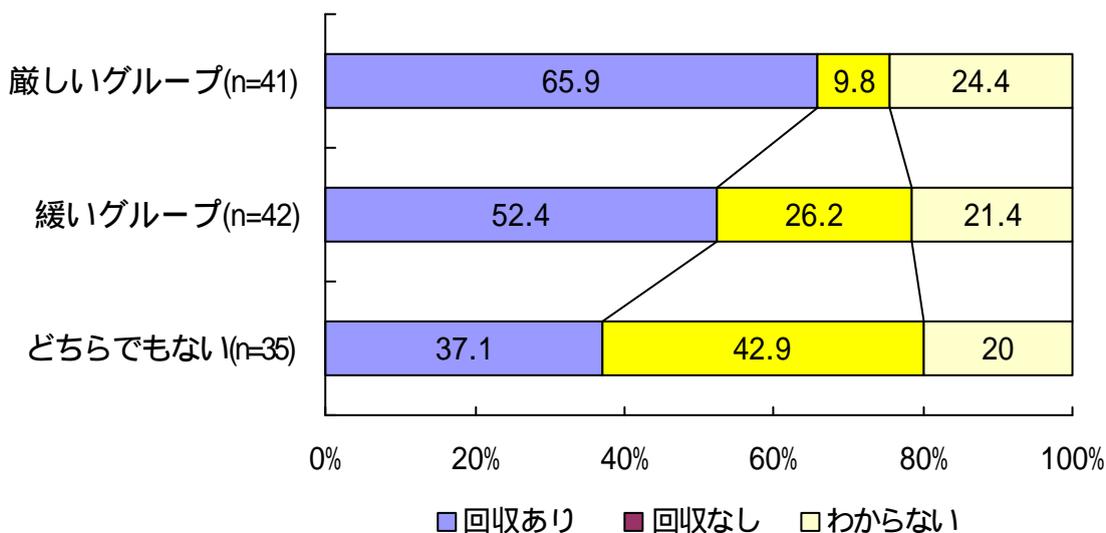


多分別地域では、やや厳しいが約 37%と最も多く、どちらでもないが約 31%、厳しいが約 18%と続く。少分別地域では、どちらでもないが約 37%と最も多く、やや緩いが約 31%、緩いが約 16%と続く。ゴミ分別の種類が多いほど厳しいと感じる傾向があることが分かった。

(2) ゴミ分別規制の印象への影響要因

ゴミ分別の中から、多分別地域にある「プラスチック包装容器」、「空きビンの色分け」、「トレー」の回収についてどれがゴミ分別の印象に影響しているかを調べた。その中で1番影響があったものを図 2 - 3 - 2 に示す。

図 2 - 3 - 2 プラスチック包装容器回収とゴミ分別規制の印象
(2乗:P = 0.023)



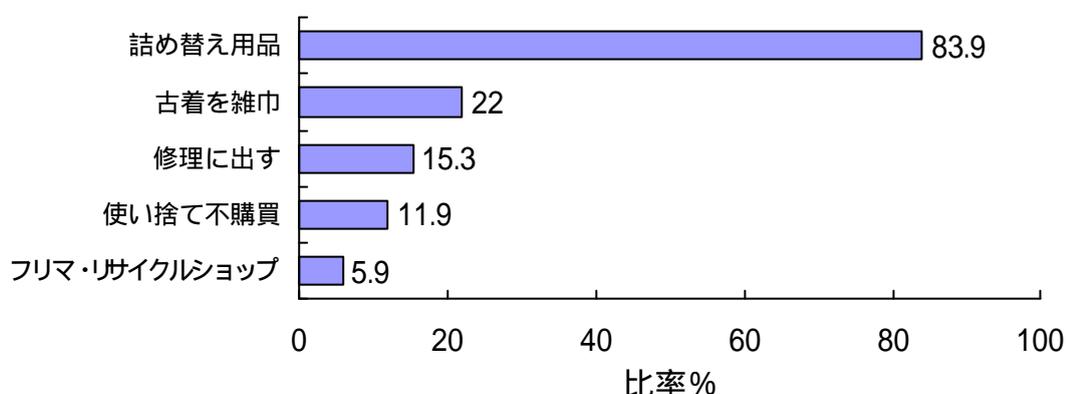
厳しいグループは回収ありが約 66%、緩いグループは約 52%、どちらでもないは約 37%であった。厳しいグループと緩いグループでは 13.5%の差がある。これは「トレー」や「ビンの色分け」よりも差があることから、プラスチック包装容器回収がゴミ分別の規定が厳しいと感じる要因であるといえる。ちなみに「トレー」は回収があるなしの差が 10% (2 乗 :

P=0.02)、 「ビンの色分け」は差が2.2(2乗:P=0.211)であった。

2.4 ゴミ削減方法

ゴミを出さないための方法として心がけていることを複数回答で聞いたところ、「シャンプーや洗剤などの詰め替え用が用意されている製品を利用している」が約84%と最も多く、次に「古着を雑巾にするなど、不要になったものを他の目的に使用している」が22%、「家具や電気製品などが故障した場合には修理に出してなるべく長く使う」約15%、「使い捨ての商品はなるべく買わないようにしている」約12%、「不要になったものは、フリーマーケットやリサイクルショップに出品している」約6%と続く。その結果を図2-4-1に示す。

図2-4-1 ゴミを出さないための方法 n=112



「シャンプーや洗剤など詰め替え用品が用意されている製品を利用する」圧倒的に支持されている。これには、男女差や血液型の差、学年の差もなくあらゆる人に取り組みやすいゴミ削減方法だといえる。「古着を雑巾にするなど不要になったものを他の目的に使用している」では、その中の約15%が1人暮らし、そうでない人が約42%である。1人暮らしとそうでない人の間に約27%の差があることから、これを実施しているのは実家に暮らしている人が多いと考えられる。「使い捨ての商品をなるべく買わないようにしている」でも、その中の約6%は1人暮らし、そうでない人が約27%で構成されている。よって、これを実施しているのも、実家暮らしが多いと考えられる。

2.5 メディア別環境問題接触度

環境問題についてどのメディアが1番接触しやすいかを検証する。

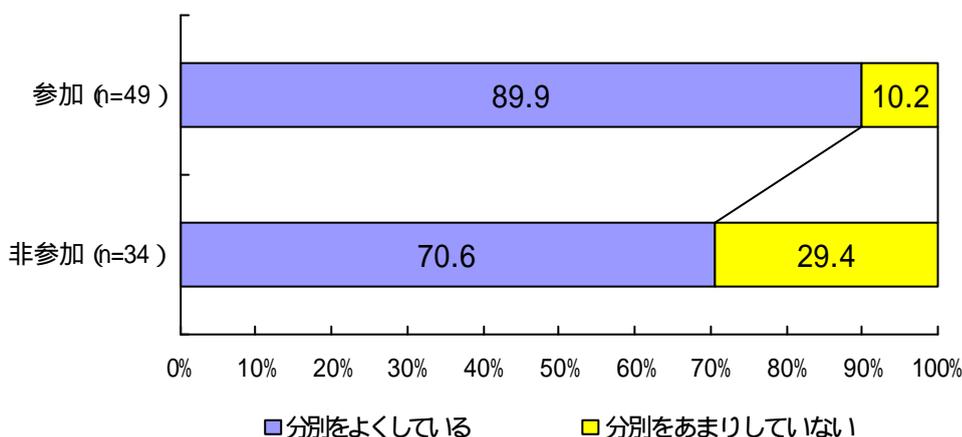
「よく見る」と「時々見る」を合わせて比較してみた。

テレビ 約85%、新聞 約57%、インターネット 約55%、本 約45%、雑誌 約42%、携帯電話 約40%と順位付けられる。やはり、テレビ・新聞・インターネットは普段生活してい

る中で接触の機会が多いものが上位に来ている。本や雑誌など自発的に読もうと思わないと触れる機会のないものは、少なくなっている。携帯電話は触れる頻度がこの中で首位を争う媒体であるにもかかわらず最下位である。このことから、携帯電話では環境問題など真面目な難しい話題は受け入れられず、そういったものはパソコンを通したインターネットの方が盛んに行われていると考えられる。

2.6 環境保全活動とゴミ分別頻度

図2-6-1 環境保全活動と分別頻度 (2乗 P=0.025)



環境保全活動に参加したことがある人たちは約 90%がゴミの分別について「よくしている」と答えており、参加したことがない人は約 71%と両グループの間には約 19%の差があり、有意の差もある。

環境保全活動の有無と分別頻度に関係性があることから、環境保全活動に参加することによって環境意識が増徴されることはないがゴミを分別するという道徳的な面が成長するのではないかということが分かる。

2.7 周囲の人々の影響

回答者本人の環境意識と周囲の人々の環境意識について集計した。本人の環境意識も高いとき低いとき、周囲の人々の環境意識が高いときと低いときの差を比べ、その差が大きいほど本人の環境意識にも影響を与えている可能性があると考えてみる。その結果で、差が大きい順に並べると、1.兄弟 2.恋人 3.親友 4.祖父母 5.両親となった。1番影響が

あると思われがちな両親が最下位で兄弟・恋人が上位である。

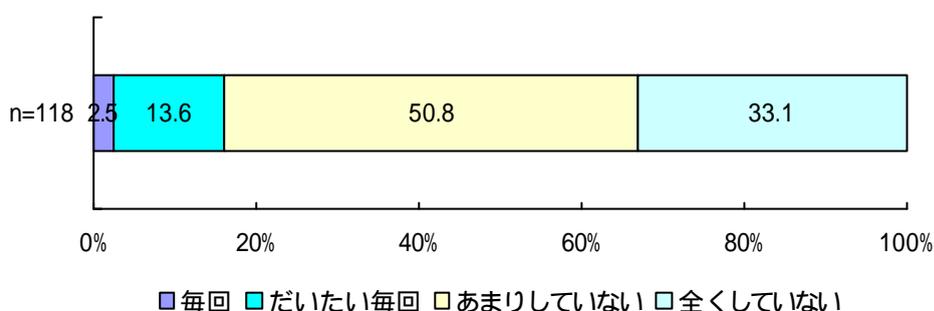
この結果から、現在回答者本人の周りに近い人物ほど影響を与えていることが考えられる。同じ時間を共有する時間が長い人物に影響されることが多い傾向があるといえる。

2.8 レジ袋対応

(1) 文教大生のレジ袋対応

レジ袋を断ることは資源を大切にする方法として取り組みやすいといわれている。一時期メディアでも余計な袋は持ち帰らないといった報道がされていた。最近では、コンビニで買い物をすると「袋はご利用になれますか」と聞かれる。これを断るのはそう難しくないと考え、環境行動の1つとして取り上げる。文教大生はどの程度の頻度でレジ袋を断ることがあるのか図2-8-1に示す。

図2-8-1 レジ袋を断るか



「あまりしていない」が約51%と最も多く、次に「全くしていない」が約33%、「だいたい毎回」が約14%、「毎回」が約3%と続く。

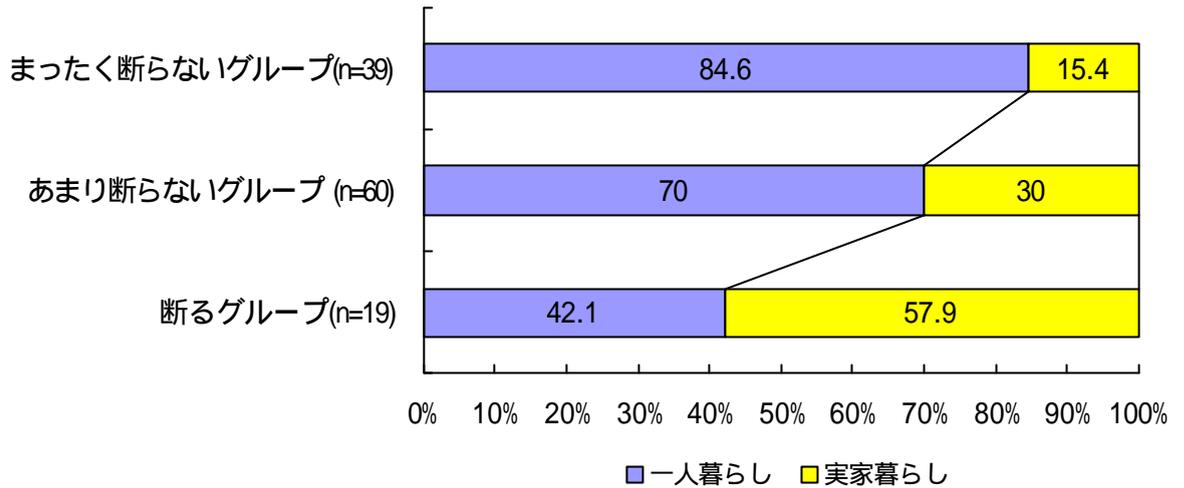
「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせると約84%となり、レジ袋を断る学生はあまり多くないことが分かる。

図2-2-1の「環境問題について」を見て分かるように、環境問題について考えている人は約56%もいることが分かる。それと比べるとレジ袋を「毎回断る・だいたい断る」の約16%はかなり少ないということが明らかになる。つまり、学生にとってはあまり資源を大切にする方法としてレジ袋を断ることは取り入れられていないということが分かる。

(2) 1人暮らしとレジ袋対応

買い物をする際にレジ袋を断るかについて、「毎回断る」、「だいたい断る」と答えた人を断るグループ、「あまり断らない」をあまり断らないグループ、「全く断らない」を全く断らないグループの3つのグループに分けた。そして、それらは1人暮らしとそうではないのとでは差が出るのか比較した。その結果を図2-2-1に示す。

図 2-8-2 1人暮らしとレジ袋 (2乗:P=0.004)



全く断らない人の約 85%が 1 人暮らしであり、断るグループの約 60%は実家暮らしである。このことから、レジ袋を断るのは実家に暮らしている人に多いことが分かる。

1 人暮らしの人は、資源の節約の選択肢としてレジ袋を断ることをしない傾向がある。これは、ゴミ袋としてレジ袋を利用するからではないかと考える。実家暮らしであれば、袋がないことで不便をすることはないので、断る人が 1 人暮らしより約 43%多いのだと考えられる。

第3章 まとめと今後の課題

* 分別規制の効果

ゴミの分別規制が強い地域ほど環境意識の高い人たちが住んでいることが分かった。そして、ゴミ分別規制の強い地域に住んでいる人ほど自転車・徒歩といった環境にやさしい移動手段を選択するという結果も出ている。このことから、ゴミ分別の規制が厳しい地域に住むことによって、ゴミを分別する手間が習慣化されているので、やる必要があると思うことには多少の手間がかかってもやること自体に抵抗を感じることなく行動すると考えられる。そして、ゴミ分別の規制が強い地域では市区町村でゴミ削減を掲げていることが多いので、そういった類の情報に触れ、環境問題を意識する機会が多いため環境意識が高くなると考えられる。

* 分別印象・ゴミ削減方法

ゴミ分別の種類が多いと厳しいと感じ、特にプラスチック包装容器の回収があると分別規制について厳しいと感じる傾向がある。プラスチック包装容器は分別も大変だが、その容器を洗ってきれいな状態にしてから資源ゴミとして出さなければならないのでその手間が要因になっているのではないかと考える。

ゴミ削減のために用いられている方法としては「詰め替え用品の購入」が最も支持されている。そして、男女、学年、血液型に差がなく、あらゆる人に取り組みやすいゴミ削減方法だと言える。これには企業側の努力の結果だと考えられる。容器に入っているシャンプーの隣には大概その製品の詰め替え用が売っている。詰め替え用の方が安いので、購入しやすいという点も支持される理由と考えられる。

ゴミ削減方法として一時期テレビでも話題になった「レジ袋」が取り組みやすいのではないかと考え設問に入れたが、実際にはレジ袋を断る人は一部でしかなく、あまりゴミ削減方法としては取り入れられていなかった。1人暮らしの人はレジ袋をゴミ袋として家で使うことが多く、この調査では1人暮らしが約7割いるのでそれも影響していると考えられる。

* 周囲の影響

育ててきた両親の環境意識が子供の環境意識1番影響していると考えていたが、実際には兄弟と恋人が影響を与える人物の上位であった。環境意識を聞く設問でも現在の環境意識を聞いているので、この影響を与えている人物も現在の環境意識に影響を与えているということだ。大学生にもなれば両親と過ごす時間よりも兄弟や恋人と過ごす時間の方が長いだろう。このことから、環境意識には接触頻度・接触時間の多い人物が大きく影響するということが分かった。

< 今後の課題 >

環境問題のことばかりに気をとられすぎた。もっと、広い視野で学生の日常にあるようなことも設問に入れて新たな発見をしたかった。環境意識について聞く設問が少なすぎた。地域に着

目するには、文教大学では1人暮らしの人が多すぎて集中しすぎて偏りがひどかった。集計にあまり役立たなかった設問も多く、もうすこし慎重に設問を考えるべきだった。

< 参考文献 >

<http://www.dims.ne.jp/timelyresearch/category/list.html>

<https://db.yomiuri.co.jp/bunshokan/>

2001. 02. 08 ゴミ・リサイクル 消費者は負担容認の流れ / 読売新聞社全国世論調査

1997. 10. 05 東京・北区の児童グループが初の交流 東京朝刊

<http://www.german-consulate.or.jp/jp/umwelt/alltagsleben/>

ドイツと日本の環境意識

http://fenv.jp/20030331/topics/20020127_social.htm

意外とエコ好き日本人？

http://eco.goo.ne.jp/life/world/germany/report6/r6_1.html

日本人のエコ意識は、けっしてドイツ人に負けてない。

<http://www.kepco.co.jp/insight/content/column/library/library087.html>

「環境行動と意識」の周辺

全国環境事情 平成 14 年版 2002 年 6 月

平成 12 年度環境調査データ

NHK 放送研究と調査 42 巻 2 号通号 477 1991 年 2 月 世論調査レポート

人々の学習とニーズと教育テレビ、ゴミ・交通問題に見る住民意識

環境意識の調査

文教大学情報学部 八ツ橋ゼミ 吉田綾

ゼミの研究論文のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

問1. あなたは現在1人暮らしですか。(1つに) (n = 118)

1. はい 70.3	2. いいえ 問5へ進んでください 29.7
------------	------------------------

問2. 1人暮らしをはじめてどのくらいたちますか。(1つに)(n = 83)

1. 1年未満 12.0	2. 1年~2年未満 47.0
3. 2年~3年未満 26.5	4. 3年以上 14.5

問3. あなたはゴミを分別する際に行政の指定に従って分別していますか。(1つに)(n = 83)

1. よくしている 54.2	2. ときどきしている 27.7
3. あまりしていない 15.7	4. 全くしていない 2.4

問4. 問3でそうする理由は何ですか。(1つに)(n = 83)

1. 環境を考慮して 16.9	2. 行政に指定されているから 36.1	3. 近所の目が気になるから 7.2
4. 面倒だから 21.7	5. 分別方法が分かりにくいから 3.6	6. その他 14.5

<ここからは全員にお聞きします>

問5. あなたが現在住んでいる地域のゴミ分別の規定をどのように感じていますか。(1つに) (n = 118)

1. 厳しい 8.5	2. やや厳しい 26.3	3. どちらでもない 35.6
4. やや緩い 21.2	5. 緩い 8.5	

問6. 実家での家族のゴミ分別の実施頻度はどのくらいですか。(1つに)(n = 118)

1. 必ずしている 61.0	2. 時々している 16.1	3. あまりしていない 11.0
4. 全くしていない 0	5. 分からない 11.9	

問7. 家族からゴミ分別の仕方について注意・指導されたことはありますか。(1つに)(n = 118)

1. ある 52.5	2. ない 41.5	3. 分からない 5.9
------------	------------	--------------

問8. あなたは買い物をする際、レジ袋をどの程度断ることがありますか。(1つに)(n = 118)

1. 毎回 2.5	2. だいたい毎回 13.6
3. あまりしていない 50.8	4. 全くしていない 33.1

問9. あなたは次の場所でのどの程度買い物することがありますか。

次のa~cのそれぞれについてあてはまるもの1つに をしてください。(1つに)(n = 118)

	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~2回	その他	無解答
a. コンビニ	22.9	27.1	35.6	12.7	1.7	-
b. スーパー	5.9	16.9	50.8	23.7	2.5	-
c. デパート	0	1.7	13.6	50.8	33.1	0.8

問10. ゴミを出さないための方法として、あなたが普段心がけていることは何ですか。
あてはまるすべてに をしてください。(1つに) (n = 118)

- | |
|--|
| 1. シャンプーや洗剤など詰め替え用が用意されている製品を利用している。83.9 |
| 2. 不要となったものは、フリーマーケットやリサイクルショップに出品している。5.9 |
| 3. 家具や電気製品などが故障した場合は修理に出してなるべく長く使う。15.3 |
| 4. 古着を雑巾にするなど、不要になったものを他の目的に使用している。22.0 |
| 5. 使い捨ての商品はなるべく買わないようにしている。11.9 |
- 無解答 5.1

問11. あなたは海や山など自然で行動することが好きですか。(1つに) (n = 118)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 好き 42.4 | 2. どちらかといえば好き 30.5 |
| 3. どちらでもない 17.8 | 4. どちらかという嫌い 6.8 |
| 5. 嫌い 2.5 | |

問12. あなたは何かの環境保全の運動に参加したことはありますか。(1つに) (n = 118)
例： 植林、海のゴミ拾い等

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 現在参加している 1.7 | 2. 過去に参加したことがある 50.8 |
| 3. 興味はあるがしたことはない 28.8 | 4. 興味もなく参加したこともない 18.6 |

問13. 徒歩15分の場所にある店に買い物へ行くことを想定してください。

このような場合、普段のあなたならどのようにしてその店まで行きますか。(1つに) (n = 118)

- | | | |
|---------------|----------------|------------------------|
| 1. 歩いていく 26.3 | 2. 自転車で行く 49.2 | 3. バイクまたは原付自転車で行く 17.8 |
| 4. 自動車で行く 6.8 | 5. その他 0 | |

問14. 地球温暖化・大気汚染・酸性雨などの環境問題について、どのように考えていますか。
あなたの考えに**最も近いもの1つ**に をしてください。(1つに) (n = 118)

- | |
|---|
| 1. 大切な問題であり、自らの生活様式を無駄のないものに変える必要がある。55.9 |
| 2. 大切な問題だとは思いますが現在の便利な生活を変える必要はない。23.7 |
| 3. 技術の進歩で解決できる問題であり、自ら取り組もうとは思わない。4.2 |
| 4. 環境問題は企業や行政の責任であり、自ら取り組む必要はない。1.7 |
| 5. その他 10.2 |
| 6. 関心がない 4.2 |

問15. 次のメディアで環境問題についてそれぞれどの程度見ることがありますか。

(それぞれ1つに) (n = 118)

	よく見る	時々見る	あまり見ない	全く見ない
A. テレビ	39.8	44.9	14.4	0.8
B. インターネット	28.8	26.3	22.9	22.0
C. 携帯電話	27.1	6.8	22.9	43.2
D. 新聞	13.6	43.2	24.6	18.6
E. 雑誌	12.7	29.7	34.7	22.9
F. 本	11.9	33.1	28.0	27.1

問16. 今までにゴミ処理場の見学などの環境体験学習を授業で受けたことはありますか。(1つに) (n = 118)

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. ある 72.0 | 2. ない 問18へ進んでください 16.9 |
| 3. 覚えていない 問18へ進んでください 11.0 | |

問17. その環境体験学習の授業での経験は、今の自分の環境への考え方に影響していると思いますか。(n = 85)
(1つに)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. かなり影響している 2.4 | 2. どちらかといえば影響している 42.4 |
| 3. どちらかといえば影響していない 36.5 | 4. 全く影響していない 18.8 |

問 18. 今までに環境に関することを学校の授業や宿題でレポートを書くなど研究をしたことがありますか。(1つに)(n = 118)

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1. ある 47.5 | 2. ない 問 20へ進んでください 32.2 |
| 3. 覚えていない 問 20へ進んでください 20.3 | |

問 19. その研究をしたことは、今の自分の環境への考え方に影響していると思いますか。(1つに)(n = 56)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. かなり影響している 7.1 | 2. どちらかといえば影響している 48.2 |
| 3. どちらかといえば影響していない 32.1 | 4. 全く影響していない 12.5 |

<あなたの現在住んでいる所の分別の規定についてお聞きします>



問 20. プラスチック製容器包装の回収はありますか。このマークがあるもの (1つに)(n = 118)

- | | | |
|------------|------------|---------------|
| 1. ある 52.5 | 2. ない 25.4 | 3. 分からない 22.0 |
|------------|------------|---------------|

問 21. ビンを捨てるときに、色で分ける指定はありますか。(1つに)

例： 透明のビン・茶色のビン・その他のビン で分けるように指定されているなど。(n =

118)

- | | | |
|-----------|------------|---------------|
| 1. ある 9.3 | 2. ない 64.4 | 3. 分からない 26.3 |
|-----------|------------|---------------|

問 22. カップ麺や食品トレー（発砲スチロール）の回収はありますか。(n = 118)

- | | | |
|------------|------------|---------------|
| 1. ある 22.9 | 2. ない 54.2 | 3. 分からない 22.9 |
|------------|------------|---------------|

1人暮らしではない方は問 26へ進んでください。

<1人暮らしの方へお聞きします>

以前住んでいた所（実家）の分別規定についてお聞きします。



問 23. プラスチック製容器包装の回収はありましたか。このマークがあるもの (1つに)(n = 83)

- | | | | |
|-------------|--------------|---------------|---------|
| 1. あった 41.0 | 2. なかった 22.9 | 3. 分からない 32.5 | 無回答 3.6 |
|-------------|--------------|---------------|---------|

問 24. ビンを捨てるときに、ビンの色で分ける指定はありましたか。(1つに)(n = 83)

- | | | | |
|-------------|--------------|---------------|---------|
| 1. あった 16.9 | 2. なかった 47.0 | 3. 分からない 32.5 | 無回答 3.6 |
|-------------|--------------|---------------|---------|

問 25. カップ麺や食品トレー（発砲スチロール）の回収はありましたか。(n = 83)

- | | | | |
|-------------|--------------|---------------|---------|
| 1. あった 25.3 | 2. なかった 33.7 | 3. 分からない 36.1 | 無回答 4.8 |
|-------------|--------------|---------------|---------|

<ここからは全員にお聞きします>

問 26. 現在住んでいる市町村

神奈川県以外にお住まいの方は 36.その他 へ をしてください。 (1つに)

(n = 118)

1. 横浜市 6.8	2. 川崎市 2.5	3. 横須賀市	4. 鎌倉市	5. 逗子市	6. 三浦市
7. 葉山町	8. 厚木市 1.7	9. 大和市 3.4	10. 海老名市 0.8	11. 座間市	12. 綾瀬市
13. 愛川町	14. 清川村	15. 平塚市 0.8	16. 藤沢市 28.0	17. 茅ヶ崎市 38.1	
18. 秦野市	19. 伊勢原市	20. 寒川町 2.5	21. 大磯町	22. 二宮町	
23. 南足柄市	24. 中井町	25. 大井町	26. 松田町	27. 山北町	28. 開成町
29. 小田原市	30. 箱根町	31. 真鶴町	32. 湯河原町 0.8	33. 相模原市 0.8	
34. 城山町	35. 藤野町	36. その他 13.6			

問 27. 性別 (1つに) (n = 118)

1. 男 44.1	2. 女 55.9
-----------	-----------

問 28. 血液型 (1つに) (n = 118)

1. A型 45.8	2. B型 18.6	3. AB型 11.0	4. O型 23.7	5. 分からない 0.8
------------	------------	-------------	------------	--------------

問 29. 学年 (1つに) (n = 118)

1. 1年 12.7	2. 2年 50.8	3. 3年 28.8	4. 4年 7.6	5. その他 0
------------	------------	------------	-----------	----------

問 30. あなたが現在住んでいる形式 (1つに) (n = 118)

1. 一戸建て 22.9	2. マンション 24.6	3. アパート 49.2	4. その他 3.4
--------------	---------------	--------------	------------

問 31. あなたの周りの人たちはどの程度環境について考えていると思いますか。

次の a ~ e のそれぞれについてあてはまる番号 1つに をしてください。

該当者がいない場合は、6. 該当者がいない に をしてください。 (n = 118)

	良く考 えている	どちらかと言 えば考 えている	どちらでも ない	どちらかと言 えば考 えてい ない	全く考 えて いない	該当者が いない	無解 答
a. 両親	27.1	45.8	23.7	2.5	0.8	0	-
b. 兄弟・姉妹	3.4	22.9	33.1	15.3	12.7	12.7	0.8
c. 祖父母	19.5	31.4	33.9	5.1	2.5	6.8	0.8
d. 親友	0.8	18.6	50.8	12.7	11.0	5.1	0.8
e. 恋人	6.8	11.0	17.8	6.8	2.5	53.4	1.7